

# 「立山黒部」世界ブランド化推進会議

## 第1回会議



平成29年6月1日  
富山県  
観光・交通・地域振興局  
生活環境文化部



# 1. 会議の趣旨

- 訪日外国人や個人旅行客の増加など「立山黒部」を取り巻く状況が大きく変化している中、「立山黒部」が日本はもとより、世界中の人々に「行ってみたい」「また来たい」と思ってもらえる観光地となるよう、「世界ブランド」としてさらなる高みを目指すための方策を検討するため、平成28年11月に「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」を設置した。
- 検討会において、現状と課題の整理や課題解決に向けたプロジェクト案などについて、環境保全と観光振興の両立に配慮しながら議論を重ね、「『立山黒部』の今後の方向性」や、その方向性に基づき検討を進めるべき「28のプロジェクト」をとりまとめたところである。
- 本会議では、「28のプロジェクト」の実現に向け、各プロジェクトの進捗管理やブラッシュアップ、必要に応じて新たなプロジェクトについて議論することとしたい。あわせて、安全性や法令に関する課題があり行政とともに具体的な詰めを行うことが必要なプロジェクトや関連する事業者が共同して実施することが必要なプロジェクトについては、ワーキンググループを設け、検討を進めることとしたい。

# (参考) 中間報告書より抜粋 / 「立山黒部」のこれからの方向性 ～ 自然 ～

立山黒部には、世界でも類を見ない原生的で雄大な自然環境が存在する。

## ◎四季の移ろい



雪の大谷(春)



みくりが池(夏)



大観峰(秋)



室堂平(冬)



新柳河原発電所(春)



新緑の黒部川(夏)



新山彦橋(秋)



宇奈月温泉街(冬)

## ◎時間の移ろい



室堂から見たご来光



夕方の雲海



室堂から見た星空



◎特異な地形



立山に国内初の氷河  
(富山県立山カルデラ砂防博物館の調査により発見され、H24年に認定)



弥陀ヶ原湿原  
(ラムサール条約登録(H24.7))



立山カルデラ



黒部峡谷(後曳橋)

◎多様な動植物



タテヤマスギ



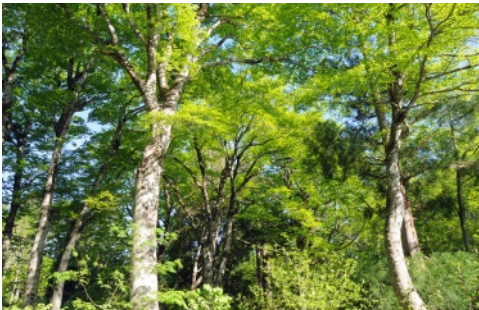
タテヤマリンドウ



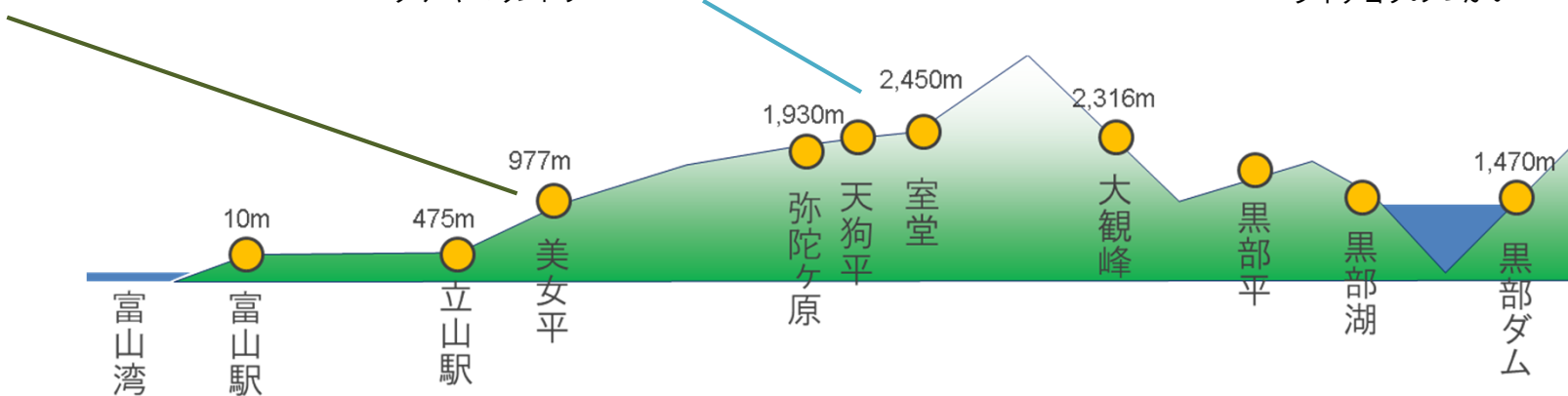
クルマユリ



ライチョウのつがい



ダケカンバ





立山黒部には、自然の厳しさや恵みを楽しむ中で培ってきた歴史・文化(立山信仰)がある。

◎立山信仰



雄山神社



布橋灌頂会



立山曼荼羅



立山博物館



教算坊



地獄谷



# (参考) 中間報告書より抜粋④ / 「立山黒部」のこれからの方向性 ～ 産業 ～

立山黒部には、厳しい自然と向き合うことで築いてきた人々の営みの産物(電源開発・砂防事業)がある。

## ◎電源開発



黒部ダム



黒部ダム建設時の様子



黒部峡谷鉄道



新柳河原発電所



豎坑エレベーター

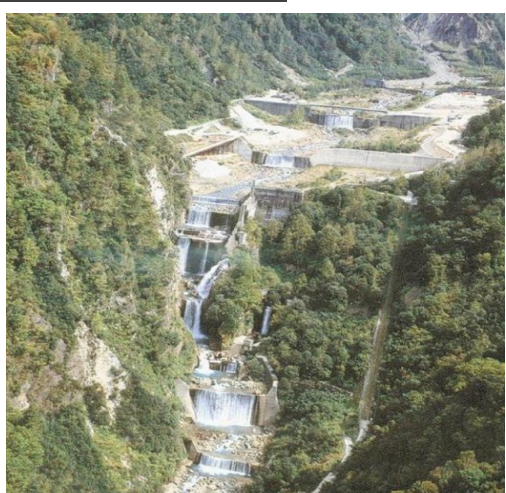


黒部川第四発電所

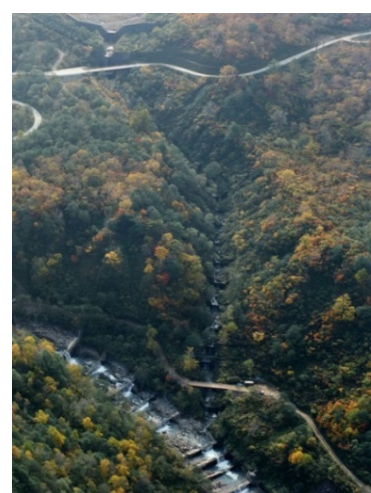


有峰ダム

## ◎砂防事業



白岩堰堤(重要文化財指定)



泥谷砂防堰堤群(国登録有形文化財)



本宮堰堤(国登録有形文化財)



立山カルデラ



- 「立山黒部」を訪れる旅行者層は大きく変化しており、個人旅行者や訪日旅行者が年々増加している。これらの人々は、多様な価値観を持ち、観光に求めるニーズや期待も様々である。
- しかし、これまでの「立山黒部」は、団体旅行者を念頭に、多くの人々を受け入れることに主眼が置かれ、旅行者の多様化するニーズや期待に応えるだけの十分なポテンシャルを持っているにも関わらず、多種多様な魅力のほんの一部を提供しているに過ぎなかったのではないか。
- そして、その結果、「立山黒部」の多種多様な魅力を旅行者に十分に伝えることができていないだけでなく、特定のスポットでの混雑や、旅行者の満足度の低下、自然環境への負荷の高まりなどの問題が起こっているのではないか。
- 今後は、「立山黒部」の自然や歴史・文化(立山信仰など)・産業といった「本物の価値・魅力」を守り、かつ、ひとつひとつの魅力を丁寧に伝えていくことが、日本はもとより、世界中の人々に「行ってみたい」「また来たい」と思ってもらえる観光地となるために必要なのではないか。それが、「世界ブランド化」に向けた「立山黒部」のこれからの方向性ではないか。



# (参考) 中間報告書より抜粋⑥ / 「立山黒部」のこれからの方向性

## 「立山黒部」が有する多種多様な「本物の価値・魅力」を、個人旅行者や訪日旅行者にも提供

- 「立山黒部」には、原始的で雄大な「自然環境」や、「歴史・文化」(例:立山信仰)、「産業・防災」(例:電源開発、砂防事業)といった多種多様な「本物の価値・魅力」がある。これまでは、主に団体旅行者を念頭に「鑑賞型・通過型」の観光コンテンツを提供してきたが、近年増加している個人旅行者や訪日旅行者が求める「体験型・滞在型」の観光についても、環境・文化・スポーツなど多様な楽しみ方が可能な「世界でも類を見ない観光地」である。
- これからは、個人旅行者や訪日旅行者に対して、十分提供されてこなかった「体験型・滞在型」の観光を磨き上げるとともに、交通手段がボトルネックとなり混雑が発生するといった「アクセスの問題」、上質な宿泊施設の不足といった「滞在環境の問題」、アルペンルートや黒部峡谷、有峰など魅力的なエリアを一度に観光することが難しいといった「周遊性の問題」、積雪期の安全な利用や火山対策といった「安全確保の問題」などについて、一体的に取り組んでいく。

### 「立山黒部」の「本物の価値・魅力」を提供

#### 「体験型・滞在型」

- (例) 環境: 特異な地形・貴重で多様な動植物を楽しむエコツアー
- 歴史文化: 立山信仰(布橋灌頂会等)の疑似体験
- スポーツ: 世界でも類を見ない豊富で良質な雪を活かした山岳スキー
- 産業: 厳しい自然環境を克服した電源開発の歴史を体感できる関西電力黒部ルートの見学・体験
- 防災: 世界文化遺産への登録を目指す立山砂防の見学・体験
- 健康: 雄大で美しい自然の中を歩くトレッキングツアー
- 食: 立山黒部の山の幸と富山湾の幸のコラボレーション

#### 従来

「鑑賞型・通過型」  
雪の大谷  
秋の紅葉  
黒部ダム





## 環境保全と観光振興の一体的な推進

- 環境を保全することが「立山黒部」の魅力を高め、また、人が訪れ、地域に利益を生むことが、環境保全等にも寄与する(収益による持続的な保全活動の実施など)ことから、保全と利用を相反するものと考えるのではなく、相互に高め合うものとして捉え、一体的に推進する。
- これまで全国に先駆けて実施してきた「立山黒部」の自然環境の保全の取り組みに加え、例えば、質の高いエコツアーの充実、より環境負荷が少ない新たな交通体系の検討など、環境保全と観光振興の両面において効果的な取り組みを推進する。



野鳥の森ネイチャーウォッチング  
(出所)株式会社ピッキオ

## ターゲットは「本物の価値・魅力」を求める世界中の人々

- 単なる物見遊山ではなく、「立山黒部」が有する自然・歴史・文化・産業・防災など多種多様な「本物の価値・魅力」について、知的好奇心を持って訪れる世界中の人々を主なターゲットとする。



# (参考) 検討を進めるべき「28のプロジェクト」

## 上質な滞在環境の整備

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルートの営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

## 新しい魅力の発掘・磨き上げ

- 07 アルペンルートの早期開業
- 08-09 冬季営業(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキーの企画・実施
- 11 黒部ルート見学会の旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会の旅行商品化

## 顧客層にあわせた受入環境の整備

- 13 新しいマーケット(欧米豪)での認知度向上
- 14 多言語表記・案内の充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

## 周遊性の確保

- 17-19 ロープウェイの整備
- 20 宇奈月温泉街の賑わい創出

## 自然環境の適正利用

- 21 登山道の整備
- 22 環境意識の啓発

## 自然環境の保全

- 23 山岳トイレの整備
- 24 外来植物除去活動の推進
- 25 利用調整地区の導入の検討
- 26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

## 自然環境の保全

- 27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

## 利用者の安全確保

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策



## 2. 今後の進め方

- 本体会議の開催（年 3回／6月、10月、3月）
- ワーキンググループの開催（会議ごとの合間に2月に1回程度の頻度で開催）
  - 安全性や法令に関する課題があり行政とともに具体的な詰めを行うことが必要なプロジェクトや関連する事業者が共同して実施することが必要なプロジェクトについて検討

### <平成29年度 会議スケジュール(イメージ)>

※ワーキンググループは、以下のスケジュールを目安にしながら、各プロジェクトの進捗に応じて開催

時 期	会 議 開 催 等
6月1日	<b>第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議(東京開催)</b> ○ 各プロジェクトの推進に向けた枠組みを確認 ・ 各プロジェクトの責任者(主体的に検討を進める者)、関係者 ・ 各プロジェクトの達成に向けたスケジュールイメージ
7月	ワーキンググループの開催
8月	「海のあるスイス」先進地調査団の派遣(8/7～8/13)
9月	ワーキンググループの開催
10月	<b>第2回「立山黒部」世界ブランド化推進会議(富山開催)</b> ※ 委員による「立山黒部」エリアの視察を併せて実施
12月	ワーキンググループの開催
2月	ワーキンググループの開催
3月	<b>第3回「立山黒部」世界ブランド化推進会議(東京開催)</b>